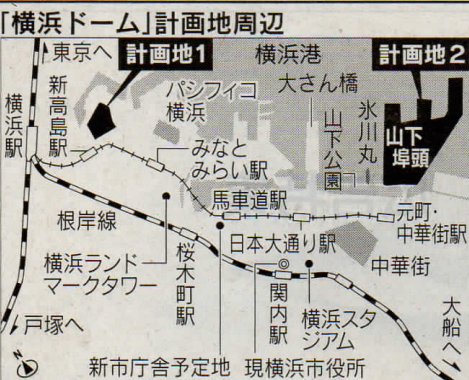


# 横浜ドーム構想再燃

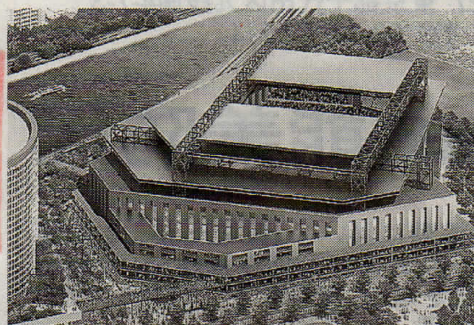
## 経済界、中心部を活性化

横浜経済界の有志が横浜の臨海部2カ所を候補地として、ドーム球場を建設する構想をまとめた。2000年ごろに一度浮上した構想だが、今回は完成予想図まで作成、行政や経済団体に建設の必要性を呼びかけていく。既存の横浜スタジアム運営会社との交渉もこれからで、巨額の建設費といった課題は多いが、横浜市中心部を活性化させる案として議論を呼びそつた。



## 商業モールを併設

MM21案



MM21地区にドームを建設した場合の予想図

地元企業、経済人が賛同する。

2014.8.12.経

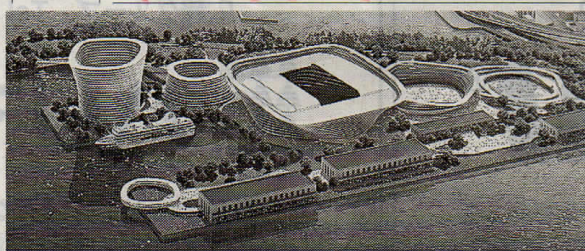
ドームは観客席にレストランやプールを備えた多目的娯楽施設とし、プロ野球だけでなく音楽コンサートや大規模展示会などの開催にも対応。横浜駅東口近くのみなどみらい(MM21地区の北端と、現在倉庫が立ち並ぶ山下埠頭の2カ所を計画地として提示した。

「横浜ドームを実現する会」(池田典義会長)がこのほどドームの詳細なCG(コンピュータグラフィックス)による完成予想図を載せたパンフレットを初めて作成した。同会は2011年に約10年ぶりに再結成された任意団体で、300を超える

山下埠頭にドーム(中央)を建設した場合の予想図

地を活用、敷地面積が約6万平方メートル、延べ床面積は17万平方メートルで、横浜赤レンガ倉庫をイメージさせるショッピングモールを併設する。

山下公園に隣接する山下埠頭を全面的に利用した計画案では、球場を中心にかじノを含めた統合型リゾート(IR)として開発する。敷地面積は約45万5000平方メートル、延べ床面積は約55万8500平方メートル。商業エリアやかじノを入れた大型ホテル、大型客船が接岸できる埠頭も建設する。交通アクセスにはLRT(次世代型路面電車)を引き、国際会議や展示会などを開ける施設を建設する構想だ。



国際会議やIR誘致は横浜市も力を入れていく。実現する場合は市にも計画実現を求めるほか、近く横浜商工会議所と神奈川県経済同友会、神奈川県経営者協会の経済3団体にも呼びかけて協議会に参加を求める。「東京五輪の開催される20年までには実現したい」(池田会長)という。

ただ、市内臨海部では61.3億円の事業費がかかる新市庁舎の建設が控える。国内のドーム球場では500億円前後の建設費がかかっているという。建設資材や人件費の高騰が問題となるなかで、実現可能性を疑問視する声もある。また横浜スタジアムの運営会社や横浜DeNAベイスターズにも具体的なアプローチはないようだ。

五輪を控え様々な開発案件が進む東京に比べ、横浜は京浜工業地帯の空洞化、横浜港の存在感低下など地盤沈下が進む。池田会長は「今回のドーム完成予想図が議論のきっかけになればいい。それが横浜の危機感を共有することにつながる」と狙いを話している。

山下埠頭案

かじノ含むリゾート